

富士山噴火時避難ルートマップ



観光客・登山者の皆様へ
 このマップは、富士山の突発的な噴火災害に対応するため、観光客・登山者や関係者の方々の噴火時の避難行動や支援の目安としていただくために作成したものです。
 「既存路マップ」には、原則として、避難時に徒歩での避難が可能な道を表示するとともに、現在地を表現したり、避難方向の指示の目安とするため、地図上の表示としてポイントを記載してあります。現地にはこのマップに記載されていない小さな徒歩道などがありますのでご注意ください。
 「富士山噴火時避難パターン」には、過去に発生した噴火の代表的な4パターンで予想される火山現象の影響範囲を踏まえ、緊急的な避難を含めた避難方向を表示してあります。
 【平成27年6月現在】

山梨県

図の見方と記号の意味

- < 凡例 >
- 10kp 富士スバルライン
ふじあざみライン
富士スバルライン上の白丸と数字は、5合目駐車場からのキロポストを表示しています。
 - 徒歩道
登山ルートなど徒歩で通行することの出来る道路です。
 - 林道
主に林業経営のため使用される道路です。一般車は通行できない場合がありますのでご注意ください。
 - 国道・県道・主な市町村道
 - 林道や徒歩道に設置されているゲート
 - 県境
 - S1 接続ポイント
各道路に設定した接続ポイントを示しています。アルファベットは各道路の路号、番号は山麓側から付いています。なお、現地にポイントを示す道標はありません。(基本的に、道路同士の交差点に設定しています。それ以外のポイントは、隣接する道路へのアクセスを考慮して設定しています。)
 - 1.0k 接続ポイント間の距離
(kはキロメートルを表しています。)
 - 一次避難対象エリア
富士山噴火時に火口ができる可能性のある範囲です。(富士山火山広域避難計画(平成27年3月)に掲載されています。)

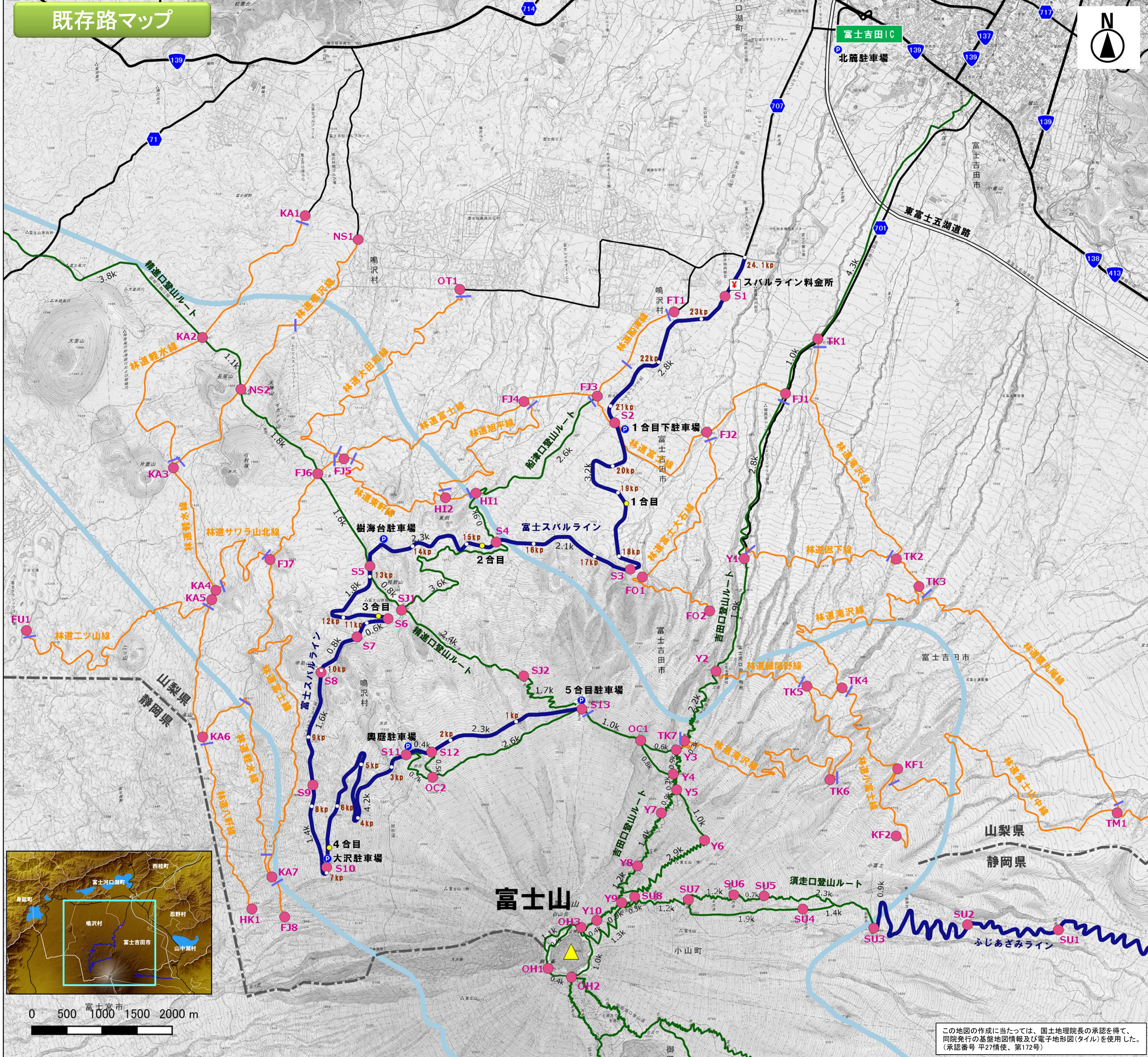
対象期間と避難手段について
 山梨県側の開山期間である「7月1日～9月14日」に噴火した際に、徒歩で避難することを想定し、作成してあります。

火山情報は、こちらからご覧になれます
http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/activity_info/314.html
 (気象庁HP)

マップは、こちらからご覧になれます
<http://bosai.pref.yamanashi.jp>
 【やまなし防災ポータル】
<http://www.fujisan-climb.jp>
 【富士山オフィシャルサイト】
 (山梨県HP)

上記のQRコードを読み取るか、URLからアクセスしてください。
 (交通規制情報も確認できます)

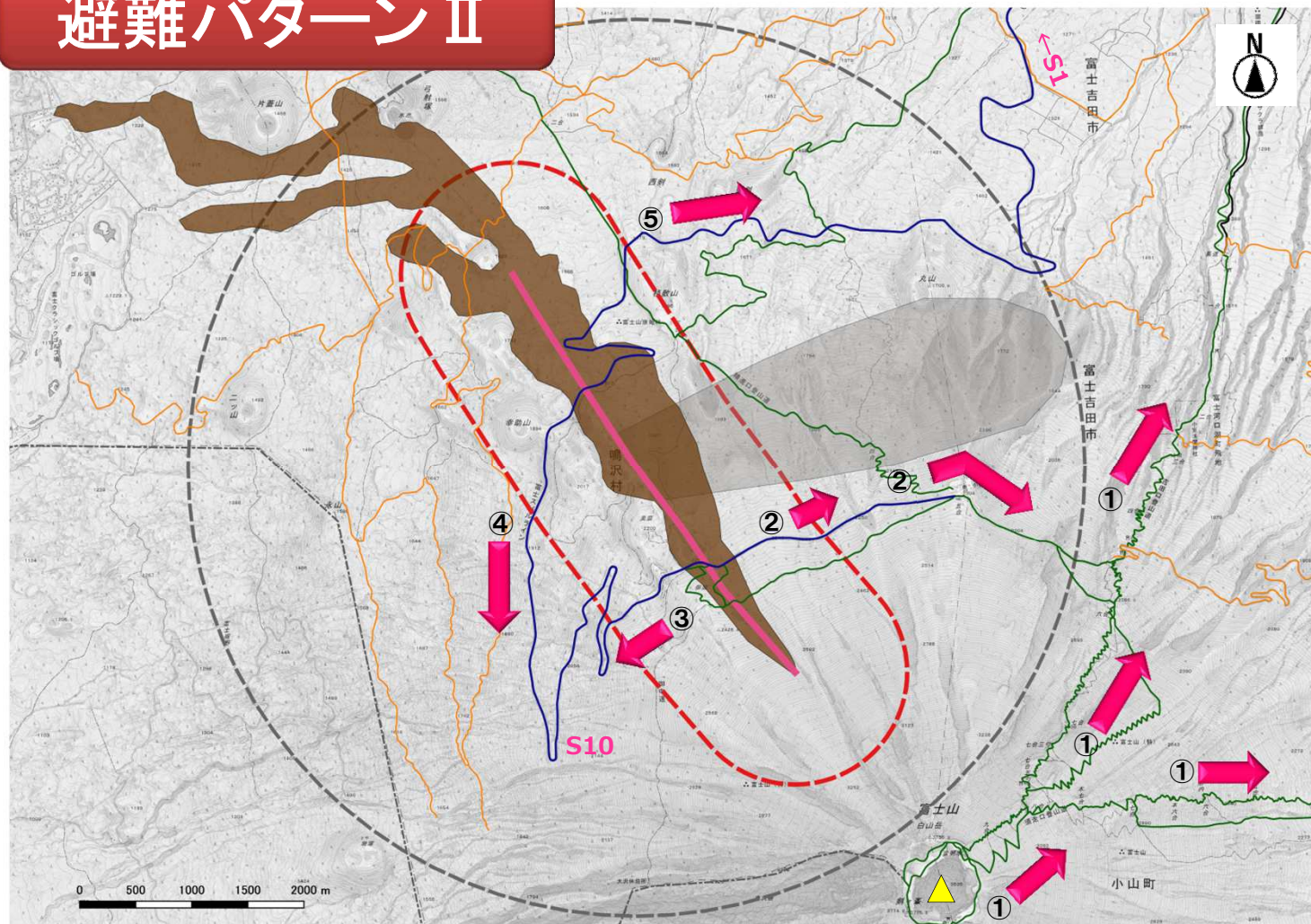
このマップの問い合わせ先
 山梨県 総務部 防災危機管理課
 住所：山梨県甲府市丸の内 1-6-1
 電話：055(223)1432



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報及び電子地形図(タイル)を使用した。(承認番号 平27情使、第172号)

富士山噴火時避難パターン

避難パターンⅡ



想定される現象

- ・約1,200年前の噴火（御庭奥庭第2溶岩流が流出）を想定
- ・火口列によって富士スバルラインが分断
- ・火口列から流出する溶岩流は、北西方向に流下

避難する方向
(地図中の番号に対応)

- ① 吉田口登山ルート上にある登山者は、そのまま吉田口又は須走口登山ルートを下山
- ② 富士スバルライン5合目駐車場付近にいる観光客・登山者は東方向に避難
- ③ 大沢駐車場～御庭付近にいる観光客・登山者は西（大沢駐車場(S10))方向に避難
- ④ 3合目～大沢駐車場の間にいる観光客・登山者は南(大沢駐車場(S10))方向に避難
- ⑤ 3合目から下にいる観光客・登山者は北東(スバルライン料金所(S11))方向に避難

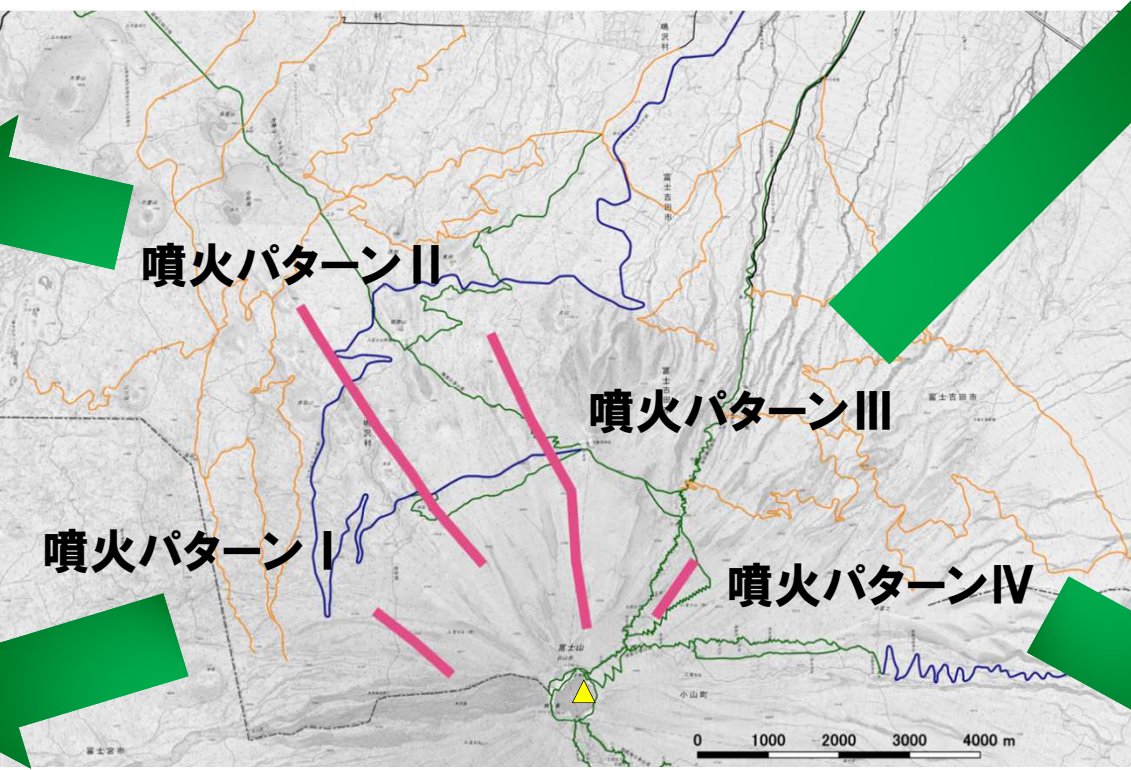
図の見方と記号の意味

この避難パターンは、富士山の山梨県側で突発的な噴火（前兆現象がない、あるいは、前兆現象があっても噴火開始までの時間が著しく短い）が起こった場合に、被害が予想される範囲から一刻も早く離れることを前提として作成しています。

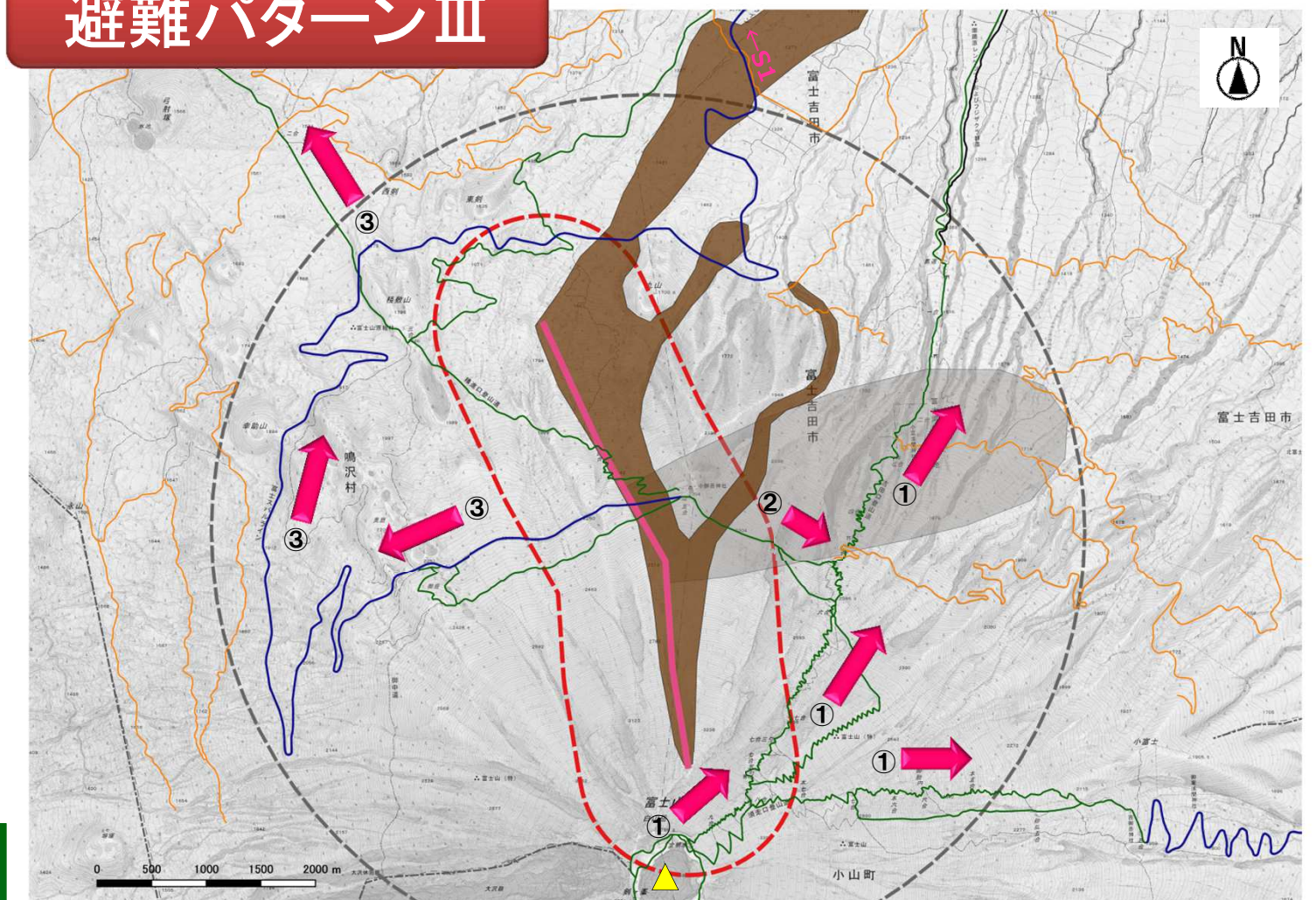
※ この噴火パターンは、富士山での代表的な噴火パターンを整理したものです。必ずここで噴火すると限定したものではありません。

- ① 噴火しそうな時、噴火が始まった時に避難すべき方向
(第一に、火口列から離れる方向かつ噴石の到達範囲外に出ることを目指します。その後、安全な方向に避難することとします。番号は、噴火開始時にいる場所を示しており、避難の順番を示したものではありません。)
- 火口列の位置(ピンク色実線)
(本避難パターン作成時に前提とした火口の位置です。富士山で噴火した場合には、単一の火口ではなく、いくつもの火口が繋がった火口列を形成する場合があります。)
- 大きな噴石が到達する可能性がある範囲
(火口から1kmを想定しています。)
- 火山灰が2時間で1cm程度降り積もる可能性がある範囲
- 7～8月に卓越する風で火山灰が2時間で1cm程度降り積もる可能性がある範囲
- 溶岩流または火砕流が流れ下る範囲
(溶岩流は比較的遅いため、すぐに危険になるわけではありませんが、火砕流は高速のため、大変危険です。過去に溶岩流または火砕流が流れ下った範囲を参考に作成しています。)

噴火パターンの概要図



避難パターンⅢ



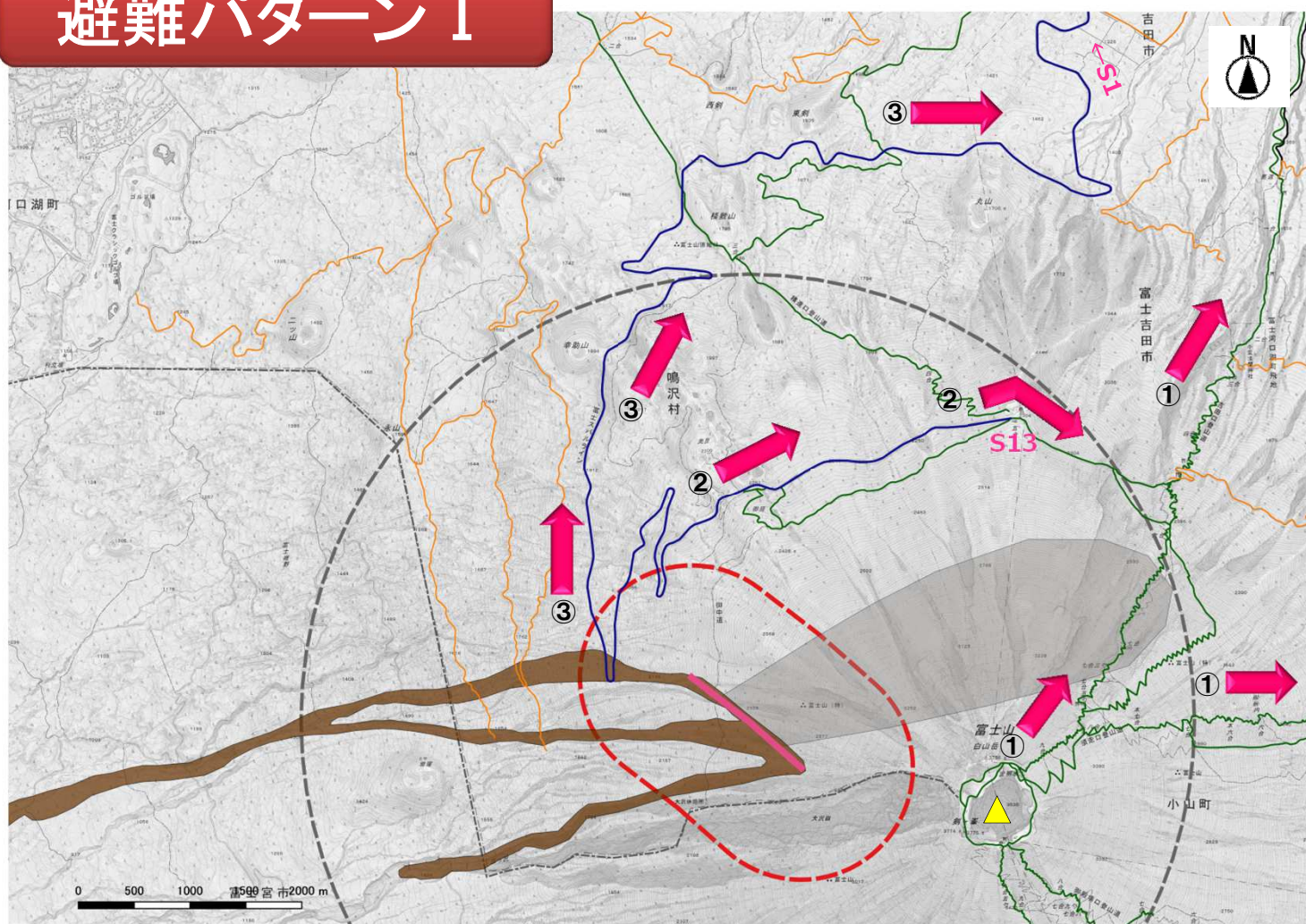
想定される現象

- ・約1,000年前の噴火（剣丸尾第2溶岩流が流出）を想定
- ・火口列によって富士スバルラインが分断
- ・火口列から流出する溶岩流は、北北西と北北東側に流下

避難する方向
(地図中の番号に対応)

- ① 吉田口登山ルート上にある登山者は、吉田口又は須走口登山ルートを下山
- ② 富士スバルライン5合目駐車場付近にいる観光客・登山者は、噴火の状況に留意して東方向に避難
- ③ 5合目駐車場の西側より下にいる観光客・登山者は、3合目から精進口登山ルート方向に避難

避難パターンⅠ



想定される現象

- ・約1,200年前の噴火（焼野西丸尾溶岩流が流出）を想定
- ・火口列から西側に流出する溶岩流によって富士スバルラインが分断

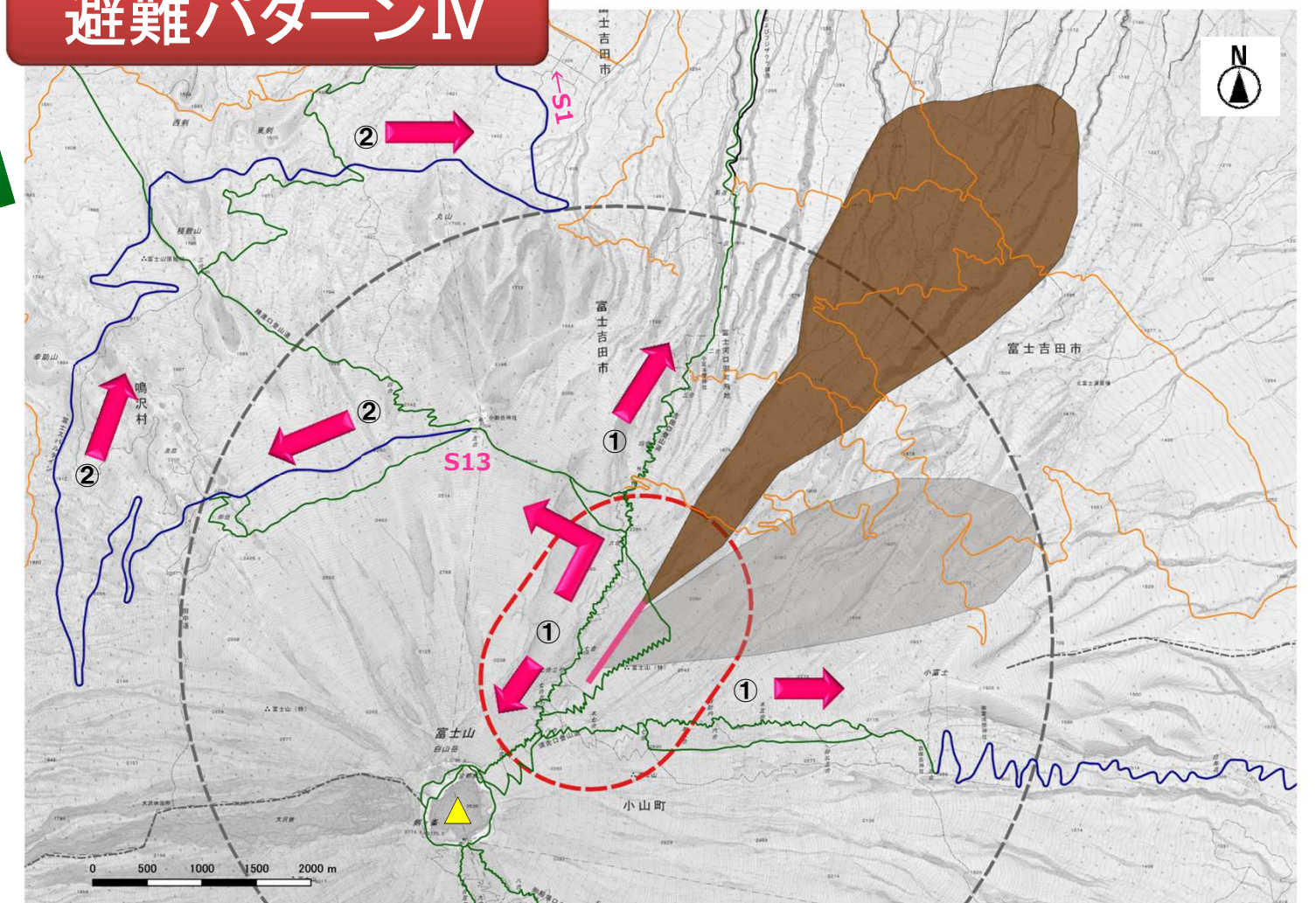
避難する方向
(地図中の番号に対応)

- ① 吉田口登山ルート上にある登山者は、吉田口又は須走口登山ルートを下山
- ② 富士スバルライン5合目駐車場付近にいる観光客・登山者と大沢駐車場から5合目駐車場の間にいる観光客・登山者は東(5合目駐車場(S13))方向に避難
- ③ 大沢駐車場から下にいる観光客・登山者は北(スバルライン料金所(S11))方向に避難

前提とする噴火のイメージ

- 1. 前兆現象(地震)の発生**
噴火の前兆現象として、火山性地震の観測回数が増えたり、地殻変動が観測されたりする場合があります。
- 2. 噴火の開始(最初の火口形成)**
最初の火口が形成され、噴煙が立ち上り、噴火が開始します。
- 3. 噴火の活発化(火口列の形成)**
溶岩が噴出し始め、火口周辺に溶岩のしびきが堆積します。また、大きな噴石は火口から1km程度まで到達します。さらに噴火が活発化して、上下へ火口列が拡大します。
- 4. 火山灰の降下**
火口列の一部または全体から噴火が始まり、風下側では火山灰が降り積もります。夜のように暗くなります。
- 5. 溶岩流(火砕流)の流出**
溶岩流や火砕流が流出し、山麓へ流下します。溶岩流の速度は比較的遅いですが、火砕流は高速で流下します。
- 6. 噴火の沈静化**
噴火が収まると、溶岩が冷えて固まります。降灰後に雨が降ると、土石流が発生する可能性があります。

避難パターンⅣ



想定される現象

- ・1500～1700年前の噴火（滝沢火砕流が流出）を想定
- ・火口列から北東側に流出する溶岩流によって林道滝沢線が分断

避難する方向
(地図中の番号に対応)

- ① 吉田口登山ルート上にある登山者は、噴火の状況に留意して、吉田口又は須走口登山ルートを下山、又は5合目駐車場(S13)方向に避難
- ② 富士スバルラインの5合目駐車場付近やスバルライン上にある観光客・登山者は、スバルライン料金所(S11)方向に避難